

## 飯館村見学を終えて

震災後、福島県を訪れたのは2回目、飯館村に関しては初の訪問でした。初日は以前訪れたことのある伊達市に宿泊し、豊かな自然や美味しい食事に囲まれて改めてこの街への愛着を深めました。

2日目は飯館村へ入り、大学の調査活動や「ふくしま再生の会」の活動を見学させて頂きました。

その中で印象的だったことが2点あります。

まず1つに、「現場主義」の大切さを再確認したことです。

研究活動は常に現場を意識して行われるべきであるという認識は以前から持っていました。それ以上に「自分で現場に出なければ」わからないことが如何に多いかを実感することができました。手入れのされていない田んぼがイノシシに掘り起こされていて、表土〇cmといった議論ができないなど、思いがけない事実を突きつけられることによって、実際に現場で何が起きているのかを認識し、正しい問題意識を持つ良い機会となりました。

2点目に、被災地の復興には「多様な技術力」が不可欠であるということです。

「ふくしま再生の会」の方々と交流して驚いたのが、メンバーにエンジニアが多くいらしたことでした。(田んぼにはWi-Fiが飛んでいました)

様々なバックグラウンドを持った人が、自分の得意分野を活かしながらチームで復興を目指す姿に感銘を受けたのと同時に、被災地の再生はその土地の人々だけで達成されるものではないということを強く感じました。

多様なバックグラウンドを持った人々を巻き込んで行くことが、これから持続的な復興活動を実現するために必要であるように思います。

今後、より多くの人々が現場を訪れ、様々な専門性を持った人々が復興に従事していることを知ることで、自分の専門性を活かす方法を考える機会が重要になってくるのではないのでしょうか。その意味で今回のようなプログラムは非常に意義深いものであり、今回このような貴重な経験をさせて頂いたことに深く感謝致します。